

## 平成26年度 医動物・種類同定検査のまとめ(4～6月)


医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成26年4月から6月の種類同定検査件数は、7件でした。内訳は昆虫類6件(トビムシ目、シロアリ目、カメムシ目、コウチュウ目、ハエ目、ハチ目、各1件)、その他の節足動物1件(ダニ目1件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
風呂場の窓際に大量に虫がみられる	 成虫、灰白色、約1.5mm	トビムシ目的一种 (トビムシ目)	様々な湿った場所にみられ、生活圏は極めて広い。雑食性で、落ち葉や腐植物、菌類などを食べる。繁殖力が高く、好適条件下で大量発生することがあり、家庭内においても台所や植木鉢などに発生し、不快害虫となることがある。
蛍光灯内に虫が入っていた	 有翅虫、黄白色、約4mm	ヤマトシロアリ (シロアリ目)	常に湿った木材や土中で生活する。加害箇所が巣を兼ねている。有翅虫の群飛は、同一地域で1ヶ月間位の幅があり、関東近郊は4～5月である。高山や酷寒地を除く日本全土に分布する。
ベランダの鉢植えに多数の虫がみられる	 2齢幼虫、黒色、約3mm	クサギカメムシ (カメムシ目)	食相の範囲は広く、ゴボウ、クサギ、キリ、ウド、タラノキ、グミ、ミカン、ダイズ、ナシ、クワ、クリ等が知られている。農業害虫として、また室内に侵入することも多いため、衛生害虫としても問題となっている。
一戸建ての一階部分に多数の虫がみられる	 成虫、赤褐色、約2.5mm	アズキゾウムシ (コウチュウ目)	成虫は貯蔵中のアズキの表面に産卵する。幼虫は豆の中に食い入って成長する。アズキ、ササゲ、エンドウなどを食害する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
屋内に虫がみられる	 働きアリ、黒褐色、約2.5mm	トビイロシワアリ (ハチ目)	草地など開けた場所に生息し、石下などに巣を作る。
天井と壁の隙間から虫が出てきた	 成虫、灰白色、約5mm	クロオビハナバエ (ハエ目)	幼虫は、動物糞、堆肥、台所のゴミなどから発生する。畜舎やごみ箱周辺で多数みられる。屋内侵入性はあまり強くない。
室内で広く虫がみられる	 成体、赤褐色、約0.8mm	クロバーハダニ (ダニ目)	イネ科、クローバー、イチゴ、キャベツなど多くの植物に寄生する。しばしば人家に侵入する。

【 検査研究課 医動物担当 】